

Aグループ 水辺の景観まちづくり活動

★Aグループでは、主に前回（8/6）のワークショップで挙げられた活動プランについて、活動の目的、活動をするために何をしたらよいか、また課題等を意見交換しました。



1. 前回のワークショップで挙げられた活動プランの目的・方法・問題点

●中川左岸においてゴミ拾い活動や草花(花壇等)を植える。

- ・ほとんどがコンクリートで覆われた護岸であり、緑化をしてよい環境を作りたい。
- ・堤防下に40cm～50cm程度の土のスペースがあり、一部にヒマワリやコスモスを植栽している。しかし、灌水を行っていないため、うまく生育していない。

→中川の水で灌水を行うのが現実的だが、海水混じりの水のため、環境に合った植物を教えてください。（海水に強い植物の選定又は水やりの時間の決定（引き潮時等））

- ・各町会に協力を依頼中だが、活動参加に積極性が感じられないため、協力要請の時に区も同行してもらいたい。
- ・うなぎも生息しているきれいな川なので、護岸を植栽等で明るくし、住民により良いイメージをもってもらいたい。

●旧中川において、秋口に『はぜ』釣り大会を開催し、親子で楽しめる活動を行う。

- ・家族でイベントを楽しむことができると共に、防災拠点の認識を子供たちに伝えることもできる。
- ・主に7月の後半から8月にかけて実施する。
- ・東大島付近において川岸にロープが架かっているため整備をする必要があると思う。急激に深くなるので、ロープを張ってあるのではないかな。

●堤防の斜面の部分に絵を描き、絵のコンクールを開催する。

- ・殺風景なコンクリート堤防の斜面部において、絵画を行う。
- ・小中学校対抗で、コンクールを開催するのはどうか。
- ・例として旧江戸川護岸には、橋をデザインしたもの、護岸をデザインしたものが描かれている。

●護岸において川をバックに演奏会を開催する。

- ・小中学校の吹奏楽部等に声をかけ出演の依頼を行う。

●新川でカヤック・カヌーを浮かべる。

- ・ 遊休水面である新川を水辺スポーツのメッカとして、生活に溶け込んだ水辺の新しい景観の創造をする。
- ・ 新川のポテンシャル
 - 東西を水門に囲まれた安全な水域である。
 - 直線が長く見通しの良い水路である。
 - 川幅が10数メートルと適度に狭く、漕ぎ手の表情も良く見える。
 - 都心までの距離が近く、出勤前、帰宅後にも気軽に利用できる。
 - 川底には新川駐車場があり、艇庫としての活用が期待できる。
 - 水面へアプローチしやすい護岸があり、低投資で事業化ができる。

●歴史的建造物を残したい。

- ・ 新川東水門の保存を考える。
 - 保存の必要性等を整理し、意見書として行政に投げかけるのはどうか。
- ・ 水門見学ツアーを開催するのはどうか。

◎挙げられた活動プランをイベント形式に行う

→『水の祭典』

★江東区花火大会の日にて

- 朝→昼：旧中川で「はぜ」釣り大会
- 昼→夕方：ロックゲート付近で演奏会
- 夜：花火大会

★旧中川ボートフェスティバルにて

カヌー・カヤックの新川での練習の成果を発表会として行う

2. その他

●9月30日開催Aグループワークショップまでの宿題

- ・ 今回の意見交換で出された活動プランの具体策およびその他の新しい活動プラン（ある場合）について、イラストや写真を使用した説明資料を各自用意してAグループワークショップに参加する。
- ・ 資料には、活動目的、活動スケジュール、活動内容、必要なもの、必要なこと、必要な人、課題、相談したい事等を記載しましょう。